

## 志布志城(内城) (志布志城は内城・松尾城・高城・新城の四つの城郭の総称)

### (国史跡, 続百名城) (志布志市志布志町帖字内城) (城山公園)

志布志城(しぶしじょう)は、鹿児島県志布志市志布志町に残る中世山城。国の史跡。

#### 沿革

築城年代は不明であるが、南北朝時代からこの地が戦乱に巻き込まれたことに伴い次第に拡充されていったと考えられる。名前がはっきりしているところで12世紀から救仁院氏、楡井氏、畠山氏、新納氏、肝付氏と次々と城主が変わった。守護大名・島津氏久が本拠としたこともある。

1577年(天正5年)、志布志は島津氏の直轄地となり、初代の地頭として鎌田政近が任命された。その後も外城として重要な役割を果たしたものの、一国一城令で廃城となった。しかし、建物が無くなっただけで破壊はされなかったらしい。

1993年(平成5年)3月24日に内城(うちじょう)跡が鹿児島県指定史跡になり、さらに2005年(平成17年)7月14日に国の史跡に指定された。志布志城主新納是久の娘島津常盤(梅窓院)がいる。

#### 構造

志布志市街地を囲む全ての山が志布志城と言っても過言ではなく、志布志小学校の裏山の「内城」、その西側の山にある「松尾城」、志布志中学校前の「高城」と「新城」という4つの城を総称して志布志城と呼ばれていた。「内城」は南北600メートル東西300メートル、6つの廓からなり、その間は空堀で遮る構造となっている。

Wikipediaによる



大手道

本丸

国の指定史跡である「志布志城跡」の内、中心的山城である「内城」  
 を実物の200分の1のスケールで復元しました。  
 40インチのモニターによる解説ビデオを  
 備え、「志布志城」の歴史と  
 防御性の高さを分かり  
 やすく解説します。



国指定史跡「志布志城跡」復元

